

(写)

6 消安第 2617 号

6 農産第 1748 号

令和 6 年 7 月 22 日

関東農政局消費・安全部長 殿

生産部長 殿

消費・安全局植物防疫課長

農産局穀物課長

令和 6 年の水稲生産における害虫防除について

令和 6 年の水稲生産においては、下記のとおり一部の害虫の発生が多くなるおそれがあることから、例年以上にその被害を警戒する必要があります。

貴職におかれましては、貴局管内の都県に対し、水稲生産における害虫防除のため、発生予察情報等を活用した生産者等への情報発信の強化、被害の発生が懸念される地域における調査や防除指導等の強化に取り組むように依頼願います。

記

【令和 6 年の水稲生産において、発生が多くなるおそれのある害虫とその対策】

1. トビイロウンカ

① 被害

トビイロウンカは例年 6 月後半から 7 月の梅雨時期に大陸から日本へ飛来し、飛来後のほ場では、定着型が現れ、急激に増殖します。イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす害虫です。

特に、令和 2 年には、東海以西において、例年より早い時期に飛来し、飛来量も多く、広い範囲で確認されました。さらに、夏の気温が高く、トビイロウンカの増殖に適した気象条件であったことから、結果として東海以西の広い地域で被害が生じ、過去 20 年で最大の被害量が生じました。

② 本年の発生状況

本年は、飛来源の一つである中国広東省におけるイネウンカ類の発生が平年比 166%と多くなっており、またトビイロウンカの割合も 57.7%と高い割合となっているとの情報があります。

また、海外飛来性害虫の専門家からは、トビイロウンカの飛来時期が年々早まっている傾向にあり、本年も例年に比べ早期の飛来が確認されていること及び飛来量も多い状況にあることから、九州

以北の中国、四国、近畿、東海等の地域においても、トビイロウンカによる被害を例年以上に警戒する必要があると助言をいただいているところです。

③ 防除対策

都道府県においては、トビイロウンカの多発生が見込まれる場合には、調査を前倒しする又は調査地点数や調査株数を増加するとともに、生産者や JA（営農指導員）等から情報提供を求めるなど、地域内の発生状況のよりの確な把握に努め、タイミングをとらえた適切な防除を指導してください。

トビイロウンカの防除は、移植時の箱施用剤が効果的ですが、本虫が多発する年には箱施用剤のみで被害を抑えることは難しいため、被害が懸念される地域では、本田防除を追加で実施してください。なお、移植時にトビイロウンカを対象とした箱施用剤を使用していない場合には、特に注意が必要です。

本田防除における薬剤散布は、トビイロウンカの幼虫期の防除が効果的です。地域により成虫の飛来時期が異なることから、都道府県が提供する発生予察情報や地域の発生状況の把握により、各世代の幼虫期にタイミングをとらえた適切な防除を実施してください。また、本虫は株元に生息しているので、株元まで薬剤が十分かかるよう散布することが重要です。

2. イネカメムシ

① 被害

イネカメムシは、斑点米を発生させる他、出穂直後の籾を加害することにより、籾の不稔を引き起こすのが特徴であり、近年、発生増加が報告されています。

昨年作では、多くの地域でイネカメムシによる収量の減収が確認されており、一部の地域において飼料用米で全面が不稔となった事例も報告されています。

② 本年の発生状況

本年のイネカメムシの発生は、例年と比較し、発生がやや早く、発生量が多いとの報告があり、既に出穂前のほ場での発生が確認され、愛知県や鳥取県等の多くの地域で注意報が発表されています。

③ 防除対策

イネカメムシは、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく出穂期に防除を行うことが重要です。

過去からイネカメムシの発生が多く、被害が懸念される地域は、出穂期の防除を計画的に実施してください。特に、本田における発生状況を確認し、例年より発生量が多い、発生時期が早いなどがある場合には、臨機防除を実施してください。

特に、これまでにイネカメムシの被害が生じた地域や被害が懸念される地域においては、飼料用米を含めた水稻生産では効果の高い薬剤による適期防除を実施するよう指導してください。

3. 斑点米カメムシ類

① 被害

斑点米カメムシ類は、主に穂揃い期以降の籾を吸汁することにより、斑点米を発生させるため玄米の品質を劣化させます。被害が大きい場合や斑点米カメムシ類の種類によっては、不稔やくず米となり減収を招きます。

② 本年の発生状況

斑点米カメムシ類は、向こう1か月の発生が多いと予想される地域が多く、7月12日時点で14件（前年同時期：1件）の注意報が発表されています。気象庁の発表によれば、7月から9月の気温は全国で高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖に好適な条件が続くことから、発生量が多い地域では被害の発生を警戒する必要があります。

③ 防除対策

斑点米カメムシ類の防除は、地域のカメムシの発生種の構成等によって異なるので、都道府県が発出する発生予察情報等を参考に適時・適切な防除を実施してください。ほ場周辺の除草は斑点米カメムシ類の発生量の抑制に効果的ですが、出穂期直前の除草は、ほ場への侵入を助長し被害を増加させるおそれがあります。

トビイロウンカの被害を受けないために

トビイロウンカ（秋ウンカ）とは

- 主に6月～7月の間に大陸から風によって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- 飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、急激に増殖する
- イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- 気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある

移動型(長翅型)



- 体長 約4.5 mm
- 翅が長い
- 大陸から飛来

定着型(短翅型)



- 体長 約3 mm
- 翅が短い
- 増殖スピードが速い

被害が大きかった年（令和2年）のトビイロウンカの発生と被害

例年より早いペースで飛来し、飛来量も多く、広い範囲で確認されました
さらに、夏の気温も高くトビイロウンカの増殖に適した気象条件であったため、株あたりの頭数も多く推移し、結果として東海以西の広い地域で被害(坪枯れ)が生じました



当時の防除対策の課題

○適期に防除ができなかった

例年発生が少ない地域では、早期防除を呼びかける発生予察情報が発表されても、坪枯れを確認してから防除を行うなど、適期に防除が行われず、被害が拡大したケースがありました

○効果の高い育苗箱施用剤が選択されなかった

トビイロウンカを対象としていない薬剤、又は、効果が低い薬剤を選択していたため、十分な防除効果が得られなかったケースがありました

○薬剤散布方法等が適切でなかった

本田防除において、薬剤の種類や散布方法によっては、トビイロウンカが寄生する株元まで薬剤が届かず、十分な防除効果が得られなかったケースがありました

トビイロウンカの防除対策

地域の発生情報を集め、ほ場をよく観察しましょう

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する**発生予察情報**などの病害虫の防除に関する情報を**こまめに確認**し、地域の**発生状況を把握**しましょう

都道府県の病害虫防除所のHP一覧



<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshu.html>

○ほ場の見回り

株元のトビイロウンカの増殖を見逃さないように、**ほ場をこまめに見回り**ましょう

被害の発生が懸念される地域では、次の対策をしっかりと行いましょう

○育苗期の防除

トビイロウンカに効果の高い薬剤を選択して**箱施用剤を施用**しましょう

○本田での防除（基幹防除）

多くの地域でいもち病やカメムシ等の防除と併せて出穂期前後に行われていますが、**トビイロウンカに効果の高い薬剤による薬剤散布を実施**しましょう
また、本田防除後も発生状況を確認するため、ほ場の観察を行いましょう

○追加防除

情報のチェックやほ場の見回りにより、**トビイロウンカの発生状況に応じた臨機の防除を実施**しましょう

出穂期以降に防除が必要な場合には、トビイロウンカの生息する株元まで薬剤が十分に届くように、使用する薬剤、散布機を選択しましょう

なお、株元への薬剤散布ができない場合には**出穂前の粒剤散布**を行いましょう

※化学農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行いましょう

（参考）トビイロウンカ被害を回避するため、次のような取組があります

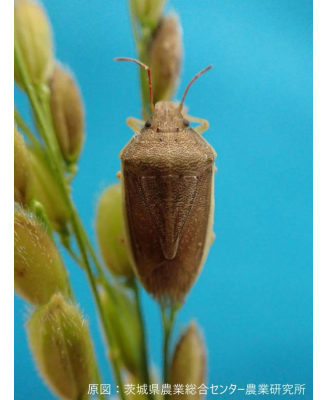
- ・抵抗性品種の使用、適切な施肥管理
- ・トビイロウンカが定着しやすい時期を避けるよう、**移植時期を前後にずらす**
- ・密植や過繁茂とならないよう、**栽植密度（植付け本数及び植付け間隔）を調整**する
- ・水管理について、**数日間隔で湛水、落水を繰り返す**

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります
都道府県が発表する情報に基づき、トビイロウンカに対して、より効果の高い防除を実施してください

不稔米を発生させるイネカメムシの

被害にご注意ください

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシの成虫



イネカメムシ幼虫（5齢）



基部斑点米

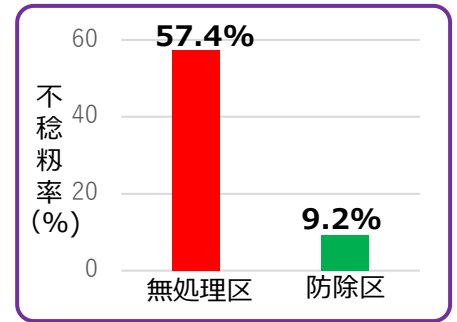


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注)防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、**地域の発生状況を把握**しましょう。

都道府県の病害虫
防除所のHP一覧



○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、**圃場への初期の侵入の把握**に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないです。

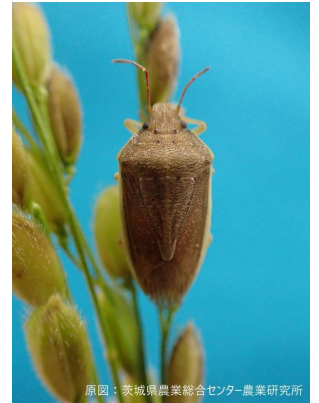
○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、**出穂期の臨機防除**を実施しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります。
都道府県が発表する情報に基づき、イネカメムシに対して、より効果の高い防除を実施してください。

飼料用米・稲発酵粗飼料用稲の生産者の皆様へ 不稔米を発生させるイネカメムシの 被害にご注意ください！

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシの成虫



イネカメムシ幼虫（5齢）



基部斑点米

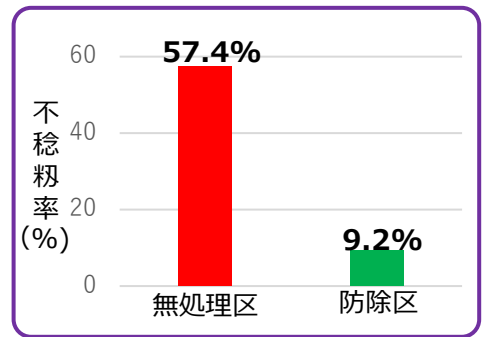


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注)防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、**地域の発生状況を把握**しましょう。

都道府県の病害虫
防除所のHP一覧



○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、**圃場への初期の侵入の把握**に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないです。

○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、**出穂期の臨機防除**を実施しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。

防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

(注) 飼料用米・稲発酵粗飼料生産においては、**使用できる農薬に制限**があります。

防除の実施に当たっては、都道府県病害虫防除所にご相談ください。